

5 - 4 飛騨地方における b 値の時間的变化

Variation of b-Values in the Hida District

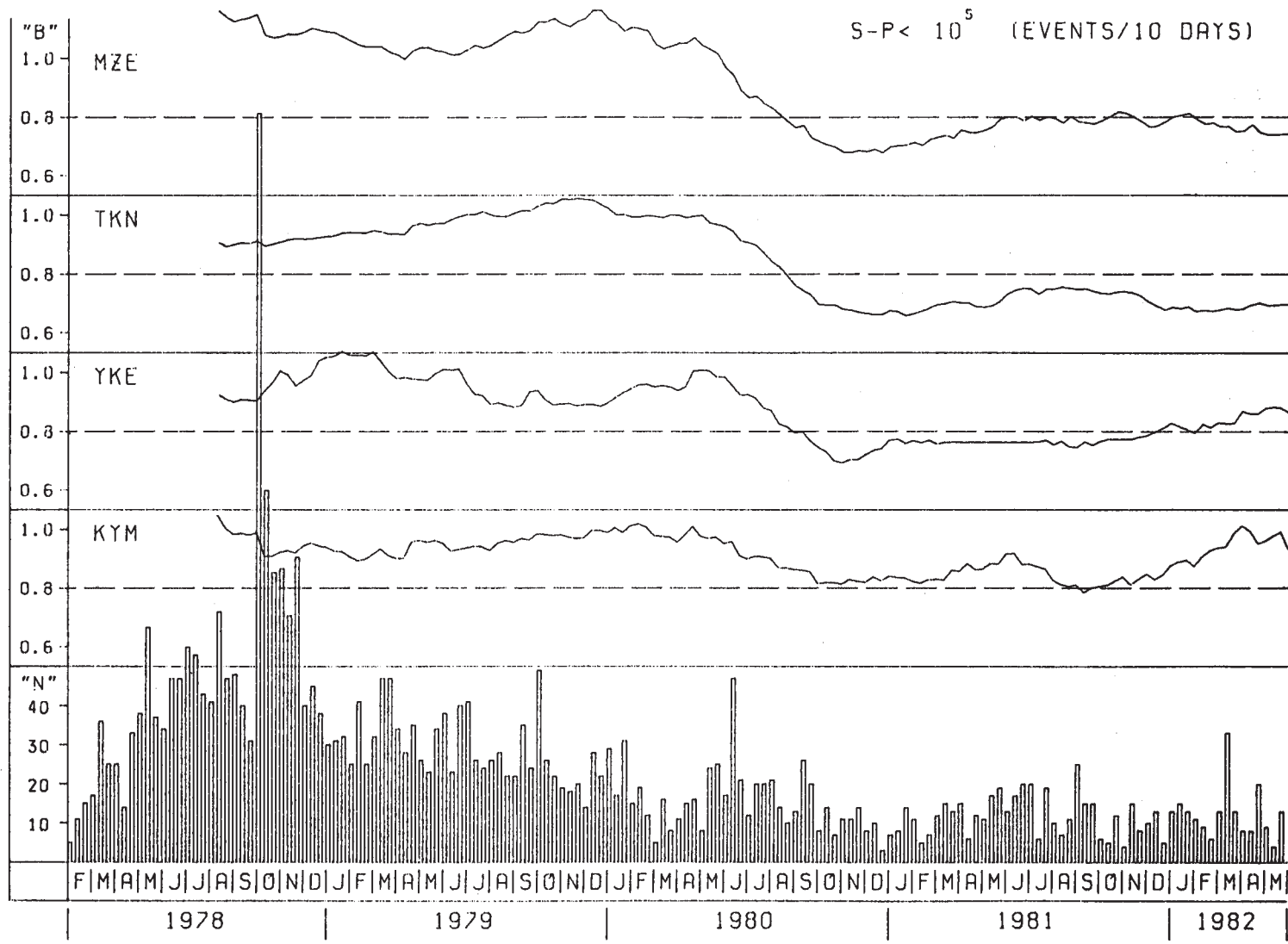
名古屋大学理学部 高山地震観測所
Takayama Seismological Observatory
School of Science, Nagoya University

第1図は、高山地震観測所のテレメーター網で観測された b 値の時間的变化と頻度分布である。

データは、インク書連続記録（感度, 50μ kine/mm）の上下動成分より, $S - P \leq 10$ 秒の読取り値を使用した。ノイズレベルは約 50μ kine, 最大振幅は $2m$ kine であり, b 値は, その内の 150μ kine から $1.5m$ kine までの部分を使い, 宇津（1965）の方法によりもとめた。

b 値の時間的变化を調べるため, その期間のとり方を 180 日に固定（従って標本数は不定であるが最低で約 200 個である。）した。計算は 10 日目毎にくりかえしている。すなわち図は 180 日の移動平均に近い。

図より, この期間での代表的な活動は, 1978 年 10 月の御岳山麓での群発地震（ $M=5.3$ ）, 1979 年 10 月の御岳噴火である。この時, 御岳に最も近い観測点（TKN; 御岳より約 $11km$ ）での b 値は有意な変化はみられない。しかし 1980 年 6 月頃より, 全観測点（最大観測点間距離は約 $55km$ ）において, b 値の低下が認められる。図の下方清見（KYM）における地震数からみても地震活動に特別の変化は認められない（他の観測点でも同様）。現在までのところ, この地域において大きな地震も発生していない。これは地震活動が定常であっても b 値が地域的に変化することがあり得ることを示す例になるかも知れない。



第1図 b 値の時間的变化と頻度分布

Fig. 1 Variation of b-values with time. With the use of maximum likelihood method, b-values are calculated from the data for past 180 days and plotted every 10 days.